



### 3. シンプル化の能力

「洞察力」という言葉があります。辞書によると「物事を見ぬく力。見通す力。」とありますが、その基本は、KJ法や要因分析図などで示したように、一見、バラバラなような事象をグループに仕訳することで整理整頓ができるのです。この整理整頓が進むとその陰に隠れていた「真因」が見えてくるのです。客観性とも言いますが、分類して統計処理をすると「数値」で示せるようになり「命力」が高まるのです。そして、「真因」に絞られるので「対策」がシンプルになるのです。逆に、現象に対応しているとイタチごっこに陥りやすいのです。右往左往するだけで、さらに問題を大きくする可能性があるのです。

人は複雑なことが苦手なのです。あれもこれもでは対策ではないのです。シンプルに「これ」と絞り込んでしまう方が方向性が生まれやすいのです。例えば、今回の東日本大震災の場合、復興と原発という2つの課題を持っているのです。この2つの要素で被害を受けているのは、当事者ばかりではなく、間接的に被害が出ているのです。例えば、旅行関連の業者が倒産に追い込まれたという報道もあったのです。また、物を運ぶ運送会社も大いに困っているのです。

政府は、東電内部に統合本部を設置しているが、全く機能していない状態であり、相変わらず政府も原子力保安院も東電もバラバラに状況報告しているのです。これでは、後手後手感が増すばかりなのです。本部を設置しているので、目の前の事象対応だけでは解決できない隠れた被害が出ている事に気配りをする必要があるのです。まさに「事務」という作業を行っている集団化しているのです。

通常の企業活動でも同じです。事が起こったら「対策本部」を設置して、責任者を明確にし情報が集まるようにする事から始めるのが肝要なのです。特に「責任者」は重要な事です。暗黙のうちに決まるというケースも多いのですが、曖昧な場合は混乱をまねくだけなのです。必ず「責任者」を決める事が重要です。この責任者は、情報を記録しておき、一定の期間毎に「俯瞰」する事によって、事象の中に「共通」するものが判明し、対策がより明確化できるようになるのです。洞察力は、このような分析力から生まれると言っても過言ではないのです。「記録」⇒「分析力」⇒「洞察力」⇒「シンプル化能力」と考えると良いと思います。

#### 【まとめ】

1. KJ方はカードで発言する方式なので、分類しやすい
2. QC手法の「特性要因図」と「パレート図」で客観化する
3. 「記録」⇒「分析」⇒「洞察力」⇒「シンプル化」となる。

【AMIニュースのバックログは<http://www.web-ami.com/siryo.html> でご覧になれます！】